

2023(令和5)年度 学校経営方針

伊賀市立上野南中学校

1 基本方針

- 生徒一人ひとりの姿を丁寧に掴み、心の奥底で繋がれる「仲間づくり」をめざし、お互いの人権を尊重する考え方や、差別を許さない実践力(行動力)を育てる教育に邁進する。それを実現するために「地域に入り」、生徒のくらしや願いを受け止め「地域から学ぶ」ことを大切にする。
- わかりやすい授業づくりを進めるための授業改善を行い、基礎的・基本的事項の定着を図り、学力の向上に努める。
- 生徒一人ひとりが、社会の激しい変化に流されることなく、それぞれが直面する様々な課題に柔軟かつたくましく対応し、自分の生き方を見いだすキャリア教育の推進に取り組む。

2 教育目標

「人の思いに心をかたむけ、人間性豊かで自立する生徒」を育成する。

3 めざす生徒像及びめざす教職員像

【めざす生徒像】

校訓「自立・創造」のもとに

- 生命と人権尊重の精神に徹した生徒
- 意欲的に学び、仲間とともに高め合う生徒
- 夢や希望を持って将来の生き方を考える生徒

【めざす教職員像】

- 教育への情熱と使命感を持ち、生徒・保護者に信頼される教職員
- 常に自己研鑽に努め、高い課題解決能力を有する教職員
- 組織の一員として、協同的、組織的に取り組む教職員
- コンプライアンス意識を高く持ち、豊かな人間性と高い倫理観を身につけた教職員

4 努力目標

(1) 人権尊重の精神に徹した教育の推進

- ①「学習計画帳」を通じて、生徒の生活背景をとらえ、生徒一人ひとりとの信頼関係を築き上げ、それをもとに教育実践に挑む。
- ②生徒の実態を十分理解した上で、部落問題をはじめあらゆる人権課題を解決するため、学習を深めるとともに家庭や地域への啓発を丁寧に進める。
- ③Q U調査の結果や教育相談からの聞き取りを基に、その結果を踏まえて、お互いの個性や人権を大切にしたい仲間づくりを目指す。
- ④研修の機会を大切にし、教職員自身の人権感覚や感性を高める。
- ⑤校区内小学校との連携を密にし、9年間を見据えた人権教育カリキュラムの実践と見直しに努める。
- ⑥教職員の倫理観を高めることにより、生徒・保護者・地域に対して信頼と安心を与える人権教育を推進する。

(2) 確かな学力の保障

- ①習熟度学習や補充学習(「アオギリ学習」)など、基礎学力定着のための学習支援体制を確立する。
- ②生徒個々の学習状況を把握し、「ユニバーサルデザインの授業づくり」に取り組む。
- ③タブレット等を適切に活用した学習活動の充実と、多様な子どもたちを誰一人取り残さない授業の実現に取り組む。
- ④「めあて」と「振り返り」の質的向上を行い、各教科の特質に応じた「見方・考え方」を基に、思考・判断・表現力と知識・理解を相互に関連させた深い学びを目指す。
- ⑤学習課題の提示や学習計画づくりの助言を積極的に行い、家庭学習の習慣化を実現する。
- ⑥学習の基礎となる「読む力」を身につけるために、読書活動を充実する。

(3) キャリア教育の推進

- ①行事や体験学習、出会い学習により生徒自らが「生き方」を学び、自分を生かす進路決定をする力を育てる。
- ②生徒による自主的・自立的活動を活性化し、見通しを持って粘り強く取り組む姿勢を育む。
- ③体験活動や調べ学習をとおして、地域や郷土の歴史や文化・産業についての理解を深め、地域や郷土に誇りを持てるようにする。

(4) きめ細かな生徒理解と生徒指導の充実

- ①教育相談の計画的な実施と、個別のアンケートを実施することにより、問題の早期発見と指導に努める。
- ②問題行動に対しては、的確に課題を把握した上で指導体制を確認し、迅速かつ適切に対応する。場合によっては、保護者・地域・関係機関等との緊密な連携を図り、問題解決と生徒の健全育成につなげる。
- ③他者と協力し合い、お互いの価値観や個性を認め合いながら、課題解決できる力を育てるために、道徳教育の充実を図る。(協創の育成)
- ④個々の「障がい」に応じた指導支援内容・方法(支援計画)の工夫と、全校体制での支援を行うことにより、特別支援教育の充実に努める。

(5) 保護者・地域から信頼される学校づくり

- ①「通信」や「ホームページ」により、家庭や地域の人々への情報発信を積極的に行う。
- ②家庭訪問や家庭連絡を通じて、保護者と話し合う機会を大切にする。
- ③学力調査や教育活動に関するアンケート結果を公表するとともに、学校運営協議会で課題の検討に取り組み、学校運営の改善に活かす。
- ④学校評価を適切に実施し説明責任を果たすとともに、保護者や地域の人々の参画を得ながら学校支援地域本部事業を進める。

(6) 働きやすい職場環境づくり

- ①スクラップアンドビルドにより、教育業務の効率化を図る。(休養日を実施できた部活動の割合を100%、放課後の会議を70分以内に終了する割合を80%とすることを目標とする。)
- ②時間外労働時間の減少(1か月45時間以内、年間360時間以内に抑える)と、年休の取得(年間15日以上)しやすい職場環境を整えることにより、心身にゆとりを持って生徒に向き合えるように努める。(ワークライフバランスを実現し、仕事への意欲を向上させる)
- ③教職員それぞれの強みを生かし、お互いが助け合う事によって、信頼感を大切にしたチームワークづくりに努める。